

地域デザインフォーラム・ブックレット No.22

住民主導によるまちづくりの促進

大東文化大学・板橋区
地域デザインフォーラム

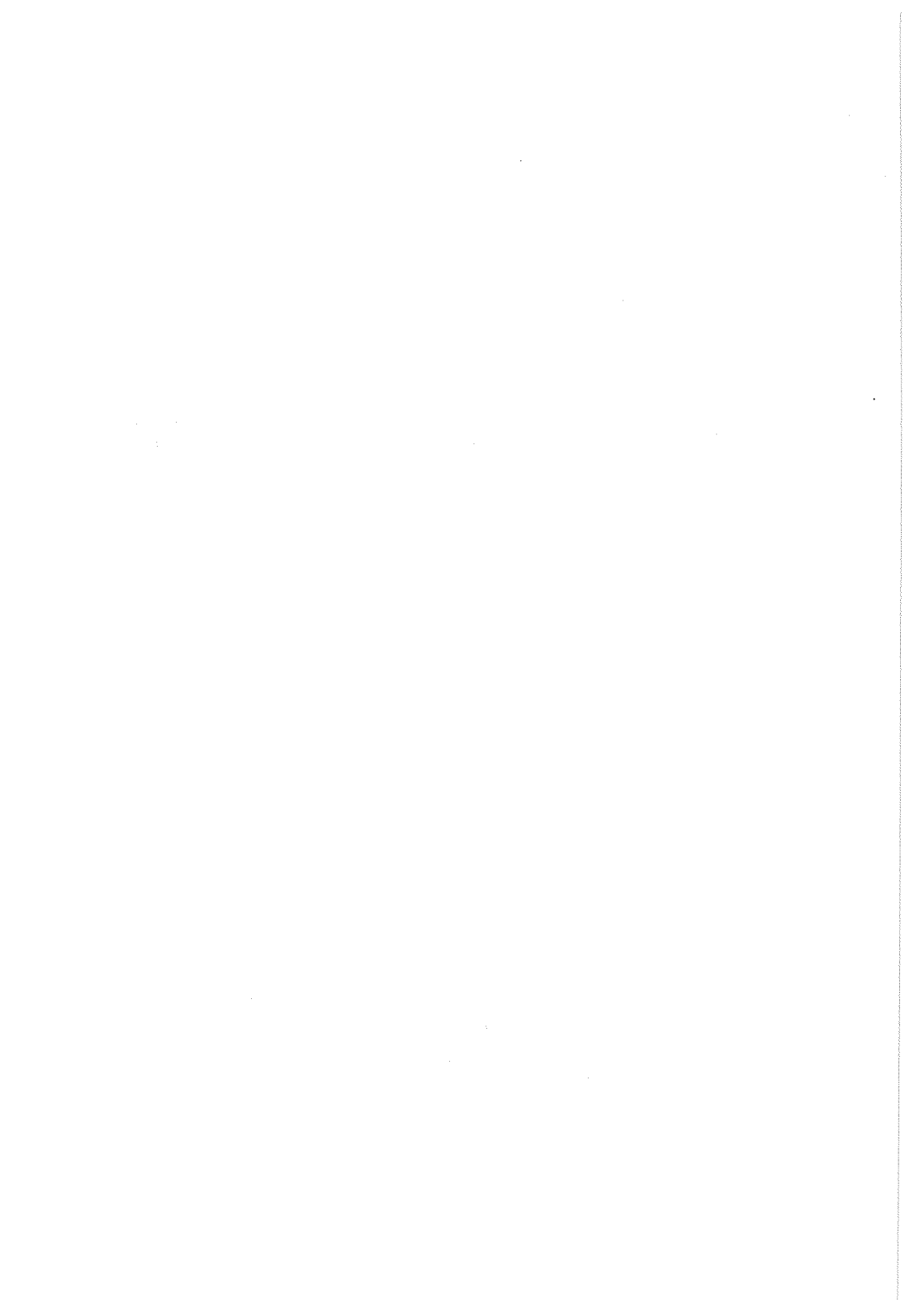
地域デザインフォーラム・ブックレット

- No. 1 コミュニティビジネスが地域を変える
- No. 2 板橋区民のコミュニティ意識調査
- No. 3 高齢者の社会参加の促進
- No. 4 産学公連携による学生ベンチャー支援
- No. 5 イノベティブな板橋をつくる—現代産業集積の研究—
- No. 6 コミュニティビジネスと地域の活性化
- No. 7 板橋区と大東文化大学の地域に開かれた「知の資源」
- No. 8 高齢者の社会参加の促進—総集編—
- No. 9 政策評価制度
- No.10 産業振興ビジョン策定に向けて
- No.11 住民参加
- No.12 新しい市民大学をめざして
- No.13 政策評価制度（総集編）
- No.14 地域の産業振興—ビジョン策定を受けて—
- No.15 協働社会の実現に向けて
- No.16 板橋コミュニティ・カレッジ構想
- No.17 元気な学生まちづくり
- No.18 シンポジウム「まちづくりと危機管理」
- No.19 少子化対策
- No.20 学生まちづくりの研究
- No.21 危機管理と自治体
- No.22 住民主導によるまちづくりの促進
- No.23 住民参加による「新評価事業」の展望

地域デザインフォーラム・ブックレット No.22

住民主導によるまちづくりの促進

大東文化大学・板橋区
地域デザインフォーラム



目 次

はじめに	1
第1章 板橋区における協働の実態と今後の取組み	3
1 板橋区における協働の実態	3
2 板橋区における今後の取組み	18
第2章 視察した自治体等の状況	29
1 葛飾区「市民活動団体（NPO）との協働事業提案制度」	29
2 宝塚市「まちづくり協議会」	34
3 池田市「地域コミュニティ推進協議会」	41
4 財団法人世田谷トラストまちづくり	45
5 特定非営利活動法人新開地まちづくりNPO	50
第3章 板橋区への提言	57
1 地域会議のあり方—予算提案権と自治力—	57
2 市民活動への支援—葛飾区・(財)世田谷トラストまちづくり・ 新開地まちづくりNPOの視察をふまえて—	62
おわりに	67
付属資料	69
付属資料Ⅰ 視察・ヒアリング報告	71
1 葛飾区視察報告	73
2 財団法人世田谷トラストまちづくり視察報告	81
3 兵庫県宝塚市視察報告	91
4 特定非営利活動法人新開地まちづくりNPO視察報告	107
5 板橋区政策企画課ヒアリング報告	117
6 「グループけやき」視察報告	129
7 「森の番所」視察報告	141

8	板橋区地域振興課ヒアリング報告	153
9	大阪府池田市視察報告	171
付属資料Ⅱ	第2分科会活動経過	187
付属資料Ⅲ	第2分科会研究員名簿	189
	執筆者一覧	190

はじめに

2000年5月の大東文化大学学長と板橋区長との協定書に基づき、地域の政策課題を共同で研究するしくみとして始まった「地域デザインフォーラム」は、2009年度と2010年度の2か年度を第5期として活動した。

第5期の研究活動は、二つの分科会を設置してすすめられ、第1分科会は「板橋区の自主財源を考える」をテーマとし、第2分科会は「参加と協働のまちづくり」をテーマとした。

第2分科会が「参加と協働のまちづくり」を選択した理由は次の三点である。

第一は地方分権時代の自治体行政では、住民の参加と協働が住民自治の中核手段にならねばならないことである。いくら地方分権により団体自治がすすめられても住民自治が実質的に進展しなければ真の地方自治にはならない。そして住民自治が進展するためには住民自身が公共部門の活動に参加し、公務員とともに活動を支えていかなければならないのである。第二は、住民自治を具体的にすすめる動きが全国的に広がり、ボランティア等の協働による公共部門の活動や自治基本条例の制定・地域会議の設置等に見られる参加と協働の枠組みづくりが自治体ごとに模索され進展している段階にきているからである。第三は、国の事業仕分けの動きに触発されたのか、地方公共団体でも行政評価とは別に事業仕分けを行う自治体が増え、その場合に住民を評価・判定を下す側に直接委嘱して、住民の視点から事務事業の存廃を判断する動きが広まってきていることである。既存行政の評価・見直しに住民の視点を活用する動きも住民自治の重要な動向と考えたからである。

そこで、第2分科会は、内部に二つの班を設け、「参加と協働のまちづくり」の研究内容を、主として住民の参加と協働のしくみの下で今後のまちづくりの方向性にアプローチしていく班（以下「住民主導班」）と、住民の参加や住民視点のもとで既存行

政の評価・見直しを進めていこうとする班（以下「評価・見直し班」）の二つの班体制で研究活動を行った。端的に表現すれば、参加と協働を今後の公共部門の活動に生かす方策と捉えたのが住民主導班であり、参加と協働を既存行政の制度・運営の見直しに生かす方策と捉えたのが評価・見直し班である。

本報告書は、「住民主導によるまちづくりの促進」と題する住民主導班の報告書であるが、本書の構成は、以下の通りである。

まず、板橋区における協働の実態と今後の取組みを取り上げている。次に、参加と協働の視点から、地域デザインフォーラムの研究員が先進的な試みを実施している自治体を視察したので、他自治体の五つの事例を報告する。最後に、板橋区の実状と先進的自治体の視察から、板橋区への提言をまとめた。そこでは、現在板橋区で進めようとしている地域会議のあり方について、地域会議に予算提案権を与えること等を提言している。

付属資料として、視察・ヒアリングを行った報告書、第2分科会の活動経過、及び研究員名簿を掲載している。